

# 領 収 書

発行日 2020年7月31日

〒141-0022  
東京都品川区東五反田 4-5-2 五反田NTビル2階  
株式会社クラダシ 様

金 18,568円也

領収日 2020年7月31日

但 寄付金として、上記金額を受領いたしました。

この寄付金は全額、公益目的事業及びその管理費に使用します。



公益社団法人フードバンクかながわ

〒236-0051 横浜市金沢区富岡東2丁目445  
TEL045-349-5803 FAX045-349-5804



# 感謝状

株式会社クラダン 様

貴社は当社団がすすめる相互扶助の社会づくり 社会福祉 及び資源・環境保全の増進のために寄付をされ 当社団の公益目的事業推進に多大なご貢献を賜りました  
よってここにそのご厚意に対し深く感謝の意を表します

2020年7月31日

公益社団法人フードバンクかながわ

代表理事 當具伸一



代表理事 吉坂義正



# フードバンクかながわ 通信

「もったいない」を「分かち合い」「ありがとう」へ



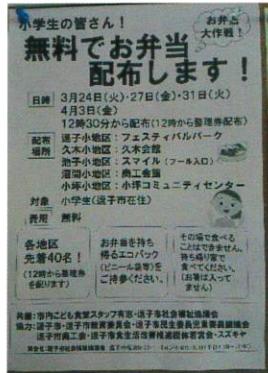
## 特集

新型コロナウイルス感染症拡大防止で地域でおこっていること。

特集のため「今月のメッセージ」は裏面に移動

○キッズカフェ杉田は杉田キリスト教会で開いているこども食堂。新型コロナウイルス拡大防止のため、こども食堂は3月28日の開催を見送った。昼食を用意できない家庭の子どもたちに食品を届ける活動に転換し、フードバンクを利用している。

○(社福)たすけあいゆいでは、開催しているこども食堂(月12回)や南区・磯子区・金沢区の横浜型児童家庭支援センター、子ども一時預かり施設での食事の提供量が増えている。区・児童相談所からの連絡による新規の子どもの受入れが増えていることと併せて、今まで学校が終わった2時頃から預かっていたのが、朝からの預かりとなり、昼食と夕飯を提供しなければならない。中には朝食も必要な子どももいる。施設での子どもの預かり時間が長くなったのが主な要因となっている。

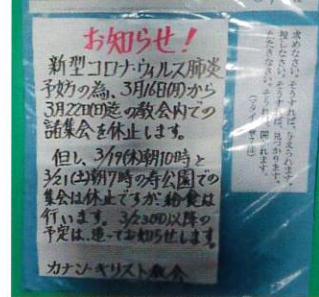


○逗子市では休校で孤食の子どもが増えているのに、こども食堂が開けなくなった。5つの小学校区で各40人の子どもたちにこども食堂のボランティアの方々がお弁当を作ることになった。

「いつもお世話になってます。先日はたくさんの食品をいただきありがとうございました。本日第1回目の無料配布が終了いたしました。予定では200個の予定でしたが、結果は119個でした。明日の終業式で市内全校生徒にチラシ配布をするので、次回以降増えることを期待しています」(社協・三富さん)

○生活福祉資金の特別貸し付けが3月25日から受付が始まった。今後相談が増えることも考えられる。緊急小口資金貸付は基本は10万円(コロナ患者が家族内にいる、要介護の家族がいる、4人以上の家族であるなどの条件の場合20万円)だが、食料支援とセットで対応する必要があると考えている(二宮社協)

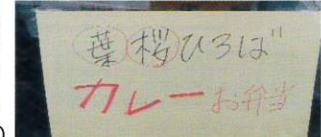
雇用の悪化により社協に助成金の申請を行う人が増えている。その際、食べるものが無く食支援を求める人の件数も伸びている。各社協よりカップ麺・インスタントラーメン・レトルト・缶詰等の食品の提供の要請があるが、フードバンクかながわでも在庫がないものも出ている。(フードバンクかながわ・土山)



○カナンキリスト教会では教会内の集会を中止にしたが、寿公園での給食を行い、200人近くの人々が列を作ったという。クロワッサン等喜ばれている。

「葉桜ひろばで、いつも使わせてもらっている自治会のホール等が、町からの使用自粛要請で使えなくなり、2月の葉桜ひろばは急遽中止しました。学校休校が続いているので、何かできないかと相談して、本日、カレーをお弁当形式にして、自治会の玄関で受け渡しました。

学童クラブのお子さんたちと、葉桜ひろばのいつもの参加者が、弾む足取りでお弁当を受け取りに来てくれました。フードバンクさんからの強力なご援助で、一人100円です。紙製の容器で素敵なカレー弁当ができました」(横山すみ子さん)



○泉区のコミュニティカフェ「宮ノ前テラス」ではこども食堂を控える代わりに食材を提供。赤い羽根「臨時休校中の子どもと家族を支えよう緊急支援活動助成事業」からの9万円助成を受け肉類・野菜類を購入。

フードバンクかながわからレトルトカレー、パン缶、お菓子等の提供を受け、68名の子どもに配布。また若いママたちからのニーズに応え、4月は昼の食堂も計画。(写真は団体HPより)



○コロナの影響による収入減の相談が増え、緊急貸付相談開設とともに食料支援の相談をする人も増加、在庫が底をついてしまった。食品提供の追加を要請。(都筑区社協)

○「コロナに関連し、生活困窮世帯の方が多く来会され食料が少なくなっています」(泉区社協)

お問い合わせ

公益社団 フードバンクかながわ [info@fb-kanagawa.com](mailto:info@fb-kanagawa.com)  
236 - 0051 横浜市金沢区富岡東2-4-45  
TEL 045-349-5803

発行責任: 藤田 誠



QRで  
ホーム  
ページ  
へ

## 基本情報

2019年度の累計  
2020/3/31

寄贈された食品  
**97トン 27.6万点**  
提供した食品  
**92トン 27.3万点**

食品寄贈締結団体 81団体  
食品提供締結団体 157団体  
行政・社協 44団体  
市民団体(子ども食堂会)  
**113団体**

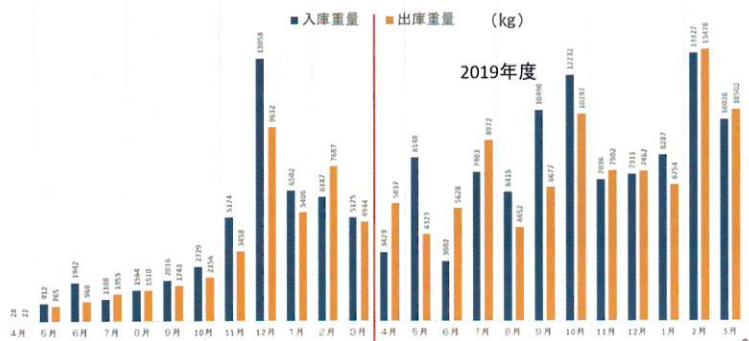
賛助会員寄付状況  
団体会員 113団体 469口  
469万円  
個人会員 205人 748口  
748千円  
寄付金累計 11,612,313円

(2018年度実績 寄贈46トン29万点・提供40トン25万点 寄付金6,078,734円)

## 2019年度が終了しました! 実績を報告します

米と災害備蓄品は20トン超え  
フードドライブは15トン超え(2018年度の3倍以上)

### 2018.4.1～2020.3.31の寄贈量と提供量



2018年度実績	寄贈食品重量 46.4トン
提供食品重量 39.8トン	
2019年度実績	寄贈食品重量 97.0トン
提供食品重量 92.0トン	

### 2019年度の概況

#### <寄贈と特徴>

♡「公益社団」としての信頼性と食品ロス削減推進法、各会員団体の企業・行政への働きかけにより、入庫数量・重量が順調に増えた。♡フードドライブ品は、16トンで前年の5トンを超える前年比356%。ユーコープ80店・生活クラブデポー22店、パルシステム神奈川ゆめコープ・生活クラブ・福祉クラブの宅配でのフードドライブの実施。労働組合、JA、ごくみん共済COOP、労働金庫、横浜銀行、イトーヨーカ堂、イオン等でのフードドライブの実施による。♡主食の米はユーコープ10.8t、ミツハシライス7.2t、フードドライブ2.8t、生活クラブ連合会1.2tの計22tの米の寄贈があり、安定した米の提供につながった。♡鎌倉紅谷5.5t、京三製作所2.9t、一神2.9t、コカ・コーラ5.6t、NTTアドバンステクノロジー4.8t、日生協スポーツドリンク5千本等大型寄贈があり、入庫重量97t(前年46t)で前年比209%。

#### <提供の特徴>

♡福祉団体や地域ケアプラザ、子ども食堂等との合意書締結・提供が拡大。食品提供団体は141団体(前年85団体)、提供回数1571回(前年541回)と提供回数は前年の3倍となった。♡活動内容に合わせた食品の提供、中継拠点の活用等で各団体が利用しやすい体制が要因の一つと考える。♡出庫食品重量92t(前年39t)で前年比231%と重量で2倍の提供。

#### <3月の特徴>

緊急用として引き続き並木ケアプラザ・旭区社協へ個人パッケージの食品を提供。生活困窮者・家庭へ食品の配食や宅配する子ども食堂もあり、子ども食堂関係団体でも食品の提供が増加。日生協から寄贈されたクロワッサンは各団体から大変好評。一か月平均1.5t台の米の提供が3月は2tと1.3倍に増えた。コロナウイルスの影響で食品提供は10トンを超えた。

### 今月のメッセージ

理事 中村淳一さん

(中央労働金庫神奈川県本部  
都県営業担当部長)



中央ろうきんでは、地域社会に存在する様々な課題や顕在化していない問題の解決のために、新たな自主事業の開発と創造に取り組む市民活動団体を助成金で応援する新たな市民活動助成制度『中央ろうきん助成制度“カナエルチカラ”～生きるたのしみ、働くよろこび～』を2019年9月に創設しました。

本助成制度は、働く／働きたい人が直面する様々な課題に対して、多様な働く場・機会の創出に取り組む事業・活動、広く“ひと・まち・暮らし”づくりに役立つ発想豊かな事業・活動に係る団体の、ユニークで新しい試みやチャレンジを応援します。

多くの団体・個人の連携によって目指す「相互扶助の社会づくり」に、“カナエルチカラ”がその一助になればと思っています。詳しくは<https://chuo.rokin.com>



### ボランティアさん紹介

寺田慈子さん

～ボランティアは仕事ではない良さ～



銀行で月間13日の勤務に就く寺田さんは、ある時行内に回覧されたフードバンクのチラシを見て目を引かれたそうです。ちょうど仕事が休みに入り、息子さんも大学生ですでに独立。時間があるから、マスク工場でボランティアしようか(笑)と、思っていたとか。そこにフードバンク！

家から近いし(徒歩30分!)、ということで、私たちとの出会いがありました。

事務局の土山さんは「おー！神様って感じだった、食品が片付かなくてどうしようって思ってましたから。固いバナナ箱も解体できちゃうし…、任せられる」と全面的な信頼を寄せます。

一日2時間のボランティアは運動にもなり、「仕事ではない良さを感じています」と寺田さん。ちょっと年齢の高い方々と一緒になるときは、高い棚入れを自分がやるとか(寺田さんは高身長)、心遣いもさりげない。賞味期限を見る速さを問うと、銀行勤めで数字に強く鍛えられているかも、とにっこり。

(金沢区在住、ユーコープ組合員)

# フードバンクかながわ 通信

「もったいない」を「分かち合い」「ありがとう」へ



## 特集

新型コロナウイルス感染症拡大防止で地域でおこっていること 3



### よこすかなかながや のお弁当配布

24時間365日の居場所を目指す「よこすかなかながや」では、3月5日から月～金で子どものお弁当を作つて渡している。無料。代表の和田信一さんが臨時休校発表後すぐに校長先生、教育委員会に掛け合い、閉鎖中の池上コミュニティプラザの調理室の使用、広報などの協力を得た。フードバンクかながわでは緊急事態宣言後の4月10日に訪問。その日は74食分のキーマカレー弁当がボランティアさんにより用意されていた。ボランティアさんは13名の登録があり、交代で対応。ボランティアさんの安全も最優先と和田さんは考え、5月1日までを区切りとして考えている。計2579食の「愛情あるお弁当」を作り提供したという。最後日、マスクサンタさんからの子ども用マスクもお届けした。



5月は、自宅療養のコロナ感染者の買い物代行を横須賀市民活動サポートセンター、スーパー、市民団体とのコラボで行う予定。

すべて敬称略となっていることをご了解ください。

### こども食堂から食品配布へ

地域で切れ目のない家庭支援を目指す保土ヶ谷区「NPO法人ちやっこ」、学習支援の中区「満腹うえのまちこども食堂」では、子ども食堂の開催ができないなかで、食品の配布を行う。5/8ちやっことの食料品提供は子ども優先で100個を予定。

### 学生支援

アルバイトができない、生活費やインターネット環境が厳しい学生への支援が必要となり、横須賀市地域福祉課・フードバンク・県立保健福祉大学等の連携により、3日分食品セット、サンマの缶詰、クラッカー、お菓子など60名分の学生向けの食品提供を行つた。



北見横須賀市  
福祉専門官

### 湘南国際村センターへの支援

はやま食卓プロジェクトは湘南国際村センターに滞在するコロナ軽症者への支援として、フードバンクを活用し、オレンジジュース、菓子、缶詰類50人分を届けた。

### 地域で活動するフードバンク

### NPO法人ワンエイド

緊急事態宣言後の休校・外出自粛で、食品の取り扱いは増加。母子家庭・高齢者家庭にとって経済的問題だけではなく、情報が取れずマスクが手にはいらないなどの生活課題も起きている。危機に対する対応力が弱い人々をどう支えるか。ボランティアの安全維持も必須。フードバンク活動をやめると食に困る人ばかり。その板ばさみに悩む。リーダー2名になつても、活動は継続する覚悟だ。

いまは市民や団体・企業は活動・事業の自粛（自分の身を守る）で、行政だけが前に出ているが、市民活動も感染リスクを下げる対策は行いつつ、できる限りのことをやることが必要だと語る。



お問い合わせ

公益社団 フードバンクかながわ [info@fb-kanagawa.com](mailto:info@fb-kanagawa.com)

236-0051 横浜市金沢区富岡東2-4-45

発行責任：藤田 誠

Tel 045-349-5803

### 鎌倉紅谷

#### 新型コロナに立ち向かう医療従事者を応援する

医師・看護師をはじめとする医療従事者の方々を応援しようと、鎌倉紅谷から寄贈されたクルミっ子などのお菓子を病院へお届けし大変喜ばれた。応援・感謝の気持ちはあるても県内の医療機関のどこに・誰に届けたらいいのかと悩むところ。フードバンクかながわの構成団体には、医療生協、JA協同病院、自治労などにつながりがありスピーディに取り組めた。

JA伊勢原協同病院/相模原協同病院/横浜市大病院/市大付属市民総合医療センター/川崎医療生協/神奈川みなみ医療生協/医療生協かながわ/神奈川北央医療生協/日本鋼管病院川崎/川崎市立病院（5/1）の7710名の方々に、感謝/応援の気持ちと併せてクルミっ子をお届けした。



株鎌倉紅谷・寺平本部長、河口本部長

### 社協の食支援

泉区社協では3月に始まった社協の緊急小口資金特例貸付申請窓口や生活支援課相談者で食支援が必要な人が通常の約3倍に増えている。窓口で保管している緊急用食品がなくなるのが早いと感じる。民生委員の活動も縮小しているが、地域の困難者情報は連絡があり次第対応しているという。

川崎市社協は、地域の団体に呼びかけ、外国につながる世帯、シングルマザー世帯など支援の必要な世帯を食品をもち訪問する活動を組み立てている。3月から休校措置に併せて、食をとれていない世帯の食料支援を行つたが、取り組みの延長と食品を持っての訪問を行う。緊急事態宣言で食品の在庫が少なくなっている。特に米が必要という。



### かながわ生き活き市民基金の

#### 緊急助成プログラムと2次への寄付募集

フードバンクかながわ構成団体・（公財）かながわ生き活き市民基金は、「新型コロナ対応緊急応援助成」プログラムを実施。行政施策を待つだけではなく、市民が地域のニーズに合わせて実践する支援活動を応援する。29団体から応募があった。（うち16団体がフードバンク登録団体）

この助成金は市民の寄付300万円を原資としており、第2期実施のためのさらなる寄付を募集中。<http://lively-citizens-fund.org/>

## 基本情報 2020年度の累計 (2020/4/30現在)

寄贈された食品 12.5トン  
企業等 31回 12.0トン  
フードドライブ 32回 0.5トン

提供した食品	回数	量
行政・社協	41回	2289kg
地域のフードバンク	33回	4058kg
こども食堂等	64回	3129kg
施設	4回	256kg
福祉関係	21回	953kg
コロナ対応医療	9回	883kg

(2019年度実績 寄贈97トン28万点・提供92トン27万点 寄付金11,612,313円)

### 合意書締結団体

寄贈締結団体 90団体  
提供締結団体 161団体  
行政・社協 45団体  
市民団体 116団体  
(子ども食堂・居場所・  
施設・福祉関係含む)

### 賛助会員寄付状況 設立以来の累計

団体会員	118団体	486口
		486万円
個人会員	207人	760口
		760千円
寄付金累計		11,646,443円

## 新型コロナ危機の中で2020年度が始まりました！

○臨時休校等により生じた食品の有効活用促進のため、農水省のフードバンク活用促進対策による情報提供を活用し、4月は3件4トンの寄贈を受けた。また生活困窮者支援のために、セブンイレブンから県社協を通してサンマ缶詰14400個が寄贈された。5月にも2回寄贈がある予定。

○イトーヨーカドー、パルシステムのフードドライブが延期になる中、個人から宅配・持ち込み品が30件と約3倍に増えた。

☆雇用不安・休校により行政・社協・地域のフードバンク・子ども食堂等への提供が引き続き増加。特に米のニーズが倍増し在庫がなくなる時期が生じている。幸いミツハシライス㈱、ユーヨーコープからの米寄贈は続いている。大変力強い。

☆販売自粛中の㈱鎌倉紅谷から提供のクルミッ子等は、コロナに立ち向かう9病院の医療従事者に提供した。5月1日には国際村軽度者滞在施設、高齢者施設にも提供。

☆開催できなくなった子ども食堂・居場所・学習支援団体は、お弁当、食品配布を行う39団体に64回提供した。

### イベント中止による寄贈

㈱ツケイは50周年イベントで配布予定の特別仕様ハイチューを寄贈。横浜マリノスのゲーム中止の影響。

### コカ・コーラから飲料類、日本農産工業株から卵スープ



### セブンイレブンから セブンプレミアムの提供

県社協を通じてセブンプレミアムから様々な食品が寄贈されています。カルバス、缶詰43,200缶6トン以上を寄贈



すべて敬称略となっている  
ことをご了解ください。

### 今月のメッセージ

#### 理事 阿部 嘉弘さん

(前・かながわ勤労者ボランティアネットワーク事務局長、  
連合神奈川副事務局長)



4月7日の緊急事態宣言以降、徹底した自粛要請が続いている。一斉休校に端を発した休業要請は、雇用の環境を不安定に一変させ、生活が困難な世帯にはとりわけ厳しい現実を突きつけました。感染の拡大が自分や家族の周りに近づく健康への不安と、雇用や収入の経済的不安がピークを迎えていた今、共助の活動に向けられる期待が高まっています。

私たちVネットも、東日本大震災の直後には「行動する」という「共助」を呼び掛けたのですが、今回は様変わりです。見えないウイルスを相手にした行動変容。長引く不安は不満となって、いつもより批判的な心が芽生えていますか？

今は、「自助」も「共助」も「行動しない」ということ。イベント会場などのフードドライブもちょっと我慢。難局を支え、乗り越えるための一助として、今こそフードバンク事業の責任と可能性を見つめなおし、多くの賛同者を受け止めたいですね。

### 農水省仲介

#### 給食用の牛乳

休校により給食用牛乳が余剰となり、全農はロングライフ牛乳200ml（賞味期限約2ヶ月）にして農水省経由で提供する。5月半ばから取り組み予定。



#### 機内提供品

飛行機の便数が減り、提供できない機内飲み物・おつまみをデルタ航空が提供

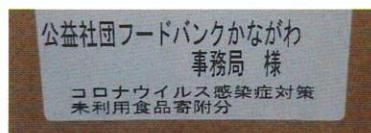
#### イベント中止

合同会社rakusouより特別仕様のラムネ（飲料）7500本を寄贈。



公益社団フードバンクかながわ  
事務局 様

コロナウイルス感染症対策  
未利用食品寄附分



### マスク・サンタ！

#### シングルルマザー・ホームレス・子どもたちへマスク

マスク不足の中、手作りマスク30枚がフードバンクに届いた。構成団体JAの若手職員の手作りマスク。NPO法人ワンエイドからシングルルマザーの方たちが困っているという情報を得ており早速お送りした。続いて50枚のマスクが届き、カナシキリスト教会を通じてホームレスの方々や支援の方々、子ども支援関係者にお届け。さらに一つ一つに手書きのメッセージを入れて子どもに向けるマスク50枚が届いた。こども食堂よこすかなかがやさんに届けた。

マスクサンタさんに感謝！！



# フードバンクかながわ 通信

「もったいない」を「分かち合い」「ありがとう」へ



## 特集

新型コロナウイルス感染症拡大防止で地域でおこっていること 4

フードパントリー  
活動が増加

### 学生に食品支援

横浜市社会福祉協議会は、新型コロナウイルス感染症対策等の影響により困難な状況におかれた横浜の若者に「食」と「地域の支えあい」を届けたいと目標50万円の寄付を募り、市内のひとり暮らし学生を中心に食品の提供を行っている。第1回目は定員100名に応募が殺到し170名で一旦募集を停止した。横浜国大、関東学院大など大学の協力が得られたことが大きい（1回目5/22健康福祉総合会館、2回目は6/2横国大校内で実施）。フードバンクかながわから、米、レトルト、缶詰、カップ麺などを提供。寄付購入した米と併せひとり2袋ずつの食品を渡した。両親の仕事がなくなつた、家族が多く苦しい、留学生等も事前登録に参加した。

相模原市ではJA、市民団体と6月1日～30日（日曜除く）9時～17時に学生への食品支援を実施。パッケージされたものではなく、自分で必要な品を選ぶスタイル。初日246名、2日目100名超が訪れ、市職員は日々フードバンク倉庫に取りに来る状況が続いている。



### 希望者増えるシングルマザー支援/粉ミルク要請

横浜市内で活動するフードバンク横浜は、主にシングルマザー50世帯の登録を受け食支援を行ってきた。新型コロナ禍で、食品の受け渡しを行ってきた場が閉鎖となるという事態に見舞われたが支援を続けている。登録以外に緊急に必要という希望者が2月の15件から3月50件、4月は70件（うちシングルマザー世帯51件）に急増。

また相模原市のフードバンク・フードコミュニティからも母子世帯への粉ミルクの緊急要請がフードバンクかながわにきた。

粉ミルクについては、区社協、県社協から、夫がコロナで就職が見送りとなった、外国につながる世帯が困っていると、緊急支援要請があった。

### 奨学生に食品支援

（一財）神奈川ゆめ社会福祉財団は、県内の高校生を毎月1万円の奨学金・学習支援・体験支援でサポートをする。現在サポートする34名のうち8割がシングルマザー世帯。お母さん訪問で食品をお渡しすると「日頃甘いものを食べることが少なくうれしい」と言って頂いたという。今回の新型コロナ緊急事態宣言では、高校生と親の双方に就労・アルバイトの場の減少、あるいは仕事があっても健康リスクへの不安もある。アンケートを実施すると全員から食支援の希望があり、フードバンクかながわからの提供食品に手紙をつけて宅配便でお届けした。



### 拡がるフードパントリー(食品提供)活動

緊急事態宣言下では、休校、公的施設が閉鎖となり、こども食堂の活動も制限されている。こどもの一日の栄養確保に給食の果たす役割は大きいが、給食がなくなり、こども食堂の活動も制限された。こどものことを気にしながら、こども食堂は、休止、弁当、食品提供、食堂継続か、を迫られている。フードバンクかながわでは4月に食品を提供したことでも食堂に簡単なアンケートを実施し実態を聞いた。

### こども食堂アンケート結果 30団体中25団体より回答

	3月	4月	5月	食品提供活動が多く、市民が取り組みやすい活動と分かった。フードパントリー(食品提供)をフードバンクの一つとして、相談にのり、旗を作成するなど支援していく。
食堂	1	1	2	
食品提供	12	18	18	
弁当	4	5	5	
休止	5	3	--	
他	3	3	3	

(5月は予定値、他は保管・おやつ等)



フードバンクかながわ  
食  
品  
提  
供  
中

### 届けるのは食品と絆です！

～キッズカフェ杉田の活動～

久保田 順（杉田キリスト教会牧師）

私達は、4年前から杉田キリスト教会を会場にこども食堂を開催してきました（HPあり）。今年の3月から状況が収束するまでは、フードパントリー（食品配達）の活動を始め、こども食堂を開催していた時に参加者からいただいた電話番号を頼りに、「フードバンクかながわ」様から寄付された食品や、近隣の方から寄付されたマスク等を、月に1～3回（15～25世帯ずつ：40～70人）ほど各家庭に届けています。

このコロナ禍で多くの人が生活に追われ、孤立する家庭が増えている中、「何かあったらいつでも相談してください。」という声かけを大切に訪問し、困難な毎日を乗り越えるのに必要な「食品と絆」をお届けできるよう、活動を続けています。



### 社協の相談窓口より

藤沢市社協の相談窓口では、緊急小口資金特例貸付申請が4月から5月半ばで800件超。予約で行っていたが、徐々に増えってきたため、説明会方式を選択。100名以上の会場で10名ずつ一日、4、5回開催。緊急小口資金のほかに総合資金（単身世帯15万円×3ヶ月分 計45万円 据え置き1年10年で返済）も実施している。感染防御から郵送も可としており今後さらに増えることが予測される。（市社協は窓口で、審査は県社協。）

比較的富裕者が多いといわれているエリアからの申請も増加。フリーランサーがコロナ禍の影響を受けている。情報を取るスキルや意識は十分にあり、相談はあまり必要ではないが、困ったと言ったことがない人々が多いという。



QRで  
ホーム  
ページ  
へ

お問い合わせ

公益社団 フードバンクかながわ [info@fb-kanagawa.com](mailto:info@fb-kanagawa.com)

236 - 0051 横浜市金沢区富岡東2-4-45

TEL 045-349-5803

発行責任：藤田 誠

## 基本情報 2020年度の累計 (2020/5/31現在)

◇寄贈された食品 34.9トン  
事業者寄付 69回 32.9トン  
フードドライブ 75回 2.0トン

◇提供した食品 362回 28.4トン  
行政・社協 102回 6.2トン  
地域フードバンク 61回 9.4トン  
こども食堂等 136回 8.6トン  
施設・福祉・病院 63回 4.0トン  
(内コロナ対応医療 9回 883kg)  
調整0.2トン

### 合意書締結団体

寄贈締結団体 97団体  
提供締結団体 171団体  
行政・社協 45団体  
市民団体 126団体  
(子ども食堂・居場所・  
施設・福祉関係含む)

### 賛助会員寄付状況

設立以来の累計

団体会員 118団体  
486口 486万円  
個人会員 214人  
833口 760千円  
寄付金累計11,646,443円

(2019年度実績 寄贈97トン2295回、提供92トン1504回 寄付金11,612,313円)

## 5月の寄贈22トン、提供16トン 過去最高に。

### 【寄贈食品】 22トン

○事業者寄付

コロナ禍におけるイベント中止、給食休止等により余剰食品が生じ、食品ロス削減対策を進める農水省は積極的に情報提供実施。フードバンクかながわも多くの提供を受けている。

5月の寄贈は、ビーフン・鍋つゆ・カレールー1万個4.2トン、デニッシュ・大豆・ヒジキ・ドライパックの大豆等13,200個(日生協)、カフェラテ・お茶3120本(コカ・コーラ)、卵スープ3,950個(日本農産工業)等多数。

○フードドライブ、(市民寄付)

5月は特に毎日のようにフードドライブ品が提供され1.5トンの実績。5/1より金沢区役所で常設ボックスが設置された。横須賀市の学生支援報道で米不足が紹介され、個人からの米提供につながった。(金沢区)  
ユーコープの常設ボックス、パルシステムのサンプル品の提供、メーデー各会場で「タオル一本運動+フードドライブ」を実施し、まず三浦半島労福協から届けられた(メーデーポスター)



### 【提供食品】 16トン

行政・社協・地域フードバンク・子ども食堂(現在は食品提供活動が主な活動)からの要請が引き続き増大。米は4~5月で4.7トンでコロナ以前(1月は1.5トン)に比べ150%増。

釜利谷ケアアラザ、二宮こども食堂、鶴見区学習支援(横浜北YMCA)に提供開始。緊急個人パッケージを旭区社協、県社協に実施。ミツハシライス、ユーコープからの提供に需要が追いかかず、在庫が消える事態になったが、個人寄付・給食用寄付でしのいだ。6月に生活クラブ連合会から米4.2トン提供、パルシステム神奈川ゆめコープのフードドライブ、ユーコープの通常1か月のフードドライブを7~8月2か月の実施予定に期待。



### 拡がる分ちあい

○山口農園山口敏雄さん洋子さん 県産米のはるみ特A玄米で300kg寄贈。ディズニー系のレストランに収めているが、閉鎖となり、おいしいうちに食べてもらおうと寄贈を決めた。ネットで寄付先を探し公的なところにつながっていると考えフードバンクかながわを選択。

○180kgのお米をネットで購入し提供してくれた中島さん。1人1袋限定商品だったが、寄付することを説明し6袋ゲットできたと話す。



○開成町から2小学校の給食米649kgの寄贈があった



○日本農産株より、本社のある西区でコロナウィルス禍下にあっても休まず開園している保育園にヨード卵・光ふわふわたまごスープ2万食を寄贈したいとの連絡があり、西区社協を通じ保育園7カ所に790食のたまごスープを提供。

### 今月のメッセージ

#### 理事 鈴木 紀子さん

(パルシステム神奈川ゆめコープ 理事)



新型コロナウイルス感染拡大によって、私たちの暮らしに不安が広がり、社会・経済に様々な影響を与えています。緊急事態宣言が出された後も、生活協同組合神奈川ゆめコープは日々の暮らしを支えるため、宅配事業においては、毎週の配達を継続していくための施策を行っています。

5月25日に緊急事態宣言が解除となりましたが、すぐに元の日常に戻ることは出来ず、新しい生活様式が必要といわれています。このような社会に大きな混乱があるときは、社会的・経済的に弱い立場にある方々への影響も大変大きくなります。国や自治体などから様々な対策や支援もありますが、フードバンクの活動は、共助の心によって、今まさに困っている方々の暮らしを支える大切な活動だと思います。

今後も組合員の皆さんをはじめ多くの方々に引き続きフードドライブを呼びかけていきたいと思います。

### 食品ロス削減



給食用牛乳が余剰となりLL牛乳にして提供。ほうとううどんはすぐに食べられるカップ麺、焼きビーフンは若者にも人気。



鍋スープの素、ひじきドライパック、卵スープ、子どもの日のこいのぼりパッケージチョコレートなど次々に大量に入荷。

### 倉庫も変わる

増える精米に耐えきれず精米機一台が故障。JA中央会のお世話で購入!



米自動計量機が導入され、精米後の小袋づめの時間が短縮! 日生協成金活用。



倉庫は満杯。  
増築を計画中。



### 特集

学生支援の  
フードパントリー

### 金沢区社会福祉協議会の学生支援

6月27日金沢区社協主催による学生への食品提供支援が行われた。予定人数は100名で大学からの一斉メールで情報提供したところ41分で満杯になった。7割が横浜市立大学生、3割が関東学院大学生。米1.5kg2袋、レトルト食品、缶詰、飲み物、菓子類などを提供。事前にプラスチックバッグに入れて手渡した。フードバンクかながわから1.4トンの食品を提供。



#### 学生の声

家賃は仕送り、生活費はバイト。バイトは二つやっているが、ひとつはコロナで無くなつた。就職先は決まつた。あとは国家試験を頑張る。  
<横浜市立大学医学部看護課4年>

家賃は5万。家賃は実家の仕送り。生活費はバイトで稼いでいる。「すきや」でバイトしていたが、コロナでバイトがなくなり、その間は実家に援助してもらつた。今は部活も始まり、生活費を稼ぐためにバイトを始めなければならない。就職は未だ決まってない。大学からのメールでこの企画の情報を得た。  
<関東学院大学4年>

### インタビュー

### 新しいフードバンク設立

### フードバンク浜っ子南

下山洋子さんはフードバンク横浜のメンバーとして2019年から活動後、独立し、「フードバンク浜っ子南」を立ち上げた。コロナ禍で見えたこと、フードパントリー・立ち上げに向けてお話を聞いた。

フードバンク横浜は、2016年設立しひとり親支援・奨学米・困窮者へ安心米などの活動を行っているフードバンク。下山さんが取り組んだのは、市内4カ所でのひとり親への登録制で継続的な食品支援。新型コロナの拡大に伴い支援希望者が急増し、2月の40件から3月60件、4月は90件。5月は130件と2月の3倍に増加した。実態はそれ以上の問い合わせがあるのだが、青葉区・都筑区など配布会場の中区から遠いエリアのため、あきらめた人もいる。二俣川から子どもを連れて自転車てきた人もいた。みんな切羽詰まっている。食べ物がある安心が何よりも必要、近くにフードバンクがあればと切に感じた、と語る。

夜遅くメールしてくる人が多い。仕事を終え、子どもの世話をし、自分の時間は遅くなるのだと思う。食品を持ち帰った後、「久しぶりに子どもと笑いながら食卓を囲みました」というメールがきたりして、こちらが励まされることも多かったという。

新しいフードバンクは横浜の南エリア（戸塚・栄・港南・磯子）を中心につながる食支援ネットワークを目指し、地域の団体と情報共有し、食品提供を行っていきたい。新しいフードバンクには倉庫、仕分け場所などが必要だが、公益財団法人かながわ生き活き市民基金の『新型コロナ対応緊急応援助成』を受けて6月1日にスタートした。（写真はフードバンク浜っ子南のメンバー）  
<https://www.fbh-minami.org/form.html>

### フードパントリー 立ち上げ

### 寄稿

### 自分達だけでなく みんなで力を合わせる地域づくりへ

~民生委員との連携で拡げる可能性~

NPO法人ちやっと 理事長 赤坂 厚子

「N P O 法人ちやっと」は、途切れることがない家庭支援を基本理念として子育て支援を主に運営しています。その活動の中で、自分達の活動拠点を利用したり、横浜市内のケアプラザと連携したりしながら毎月1回のペースでこども食堂の開催を行ってきました。新型コロナウィルスの為全ての活動が休止してしまいましたが、何か出来ることはないか、会えていない子育て世代にどうやつたらコンタクトとれるのかと考えて「無料食料品配布会」を開催することにしました。

最初は、子育てサロンに来ている親子が配布会に足を運んでくれましたが、徐々に近所の方へ広がり、次に民生委員の方々の見学がきっかけとなり、私たちの活動を評価し、「一緒にやりましょう」とお声がけいただきました。そのお声がけは本当に感動でした。お互いの役割分担を行い、当法人としても本来の目的である貧困世帯への配布が、民生委員さんが日頃から支援しているご家族へのお声がけをしていただくことにより支援へと繋がり、地域の輪を広げる事ができました。今後は来年3月まで毎月1回開催し支援を繋げていく予定です。

私たち法人が活動拠点としている地域と繋がる事はなかなかハードルが高いことでしたが、今回の緊急事態により大きな絆を産む事ができ、法人のスタッフと地域が顔の見える関係性ができました。そして今後は、日頃から遊びに来ている親子が地域へ出向く後押しができれば、もっと大きな輪が地域にできると思いながら活動しています。自分達だけで、と考えるのではなく、みんなでがんばろう！と、力を合わせていければと思います。

### こども食堂の フードパントリー



星の子無料領布会



上星川町内会領布会

### お問い合わせ

公益社団 フードバンクかながわ [info@fb-kanagawa.com](mailto:info@fb-kanagawa.com)

236 - 0051 横浜市金沢区富岡東2-4-45

TEL 045-349-5803

発行責任：藤田 誠



QRで  
ホーム  
ページ  
へ

## 基本情報 2020年度の累計 (2020/6/30現在)

◇寄贈された食品 65.0トン  
事業者寄付 114回 62.0トン  
フードライブ 118回 3.0トン  
◆6月 寄贈30.0トン  
提供29.7トン

◇提供した食品 612回 57.9トン  
行政・社協 165回 16.0トン  
地域フードバンク 96回 16.6トン  
こども食堂等 230回 16.9トン  
自立支援 17回 0.8トン  
福祉・病院 88回 7.3トン  
調整 16回 0.3トン

(2019年度実績 寄贈97トン2295回、提供92トン1504回 / 寄付金累計11,612,313円)

**6月の寄贈食品:30トン超。**  
**過去最高だった5月22トンをさらに超えた。**  
**4-6月累計の寄贈は前年同月比4.5倍。**

**【寄贈食品】(敬称略) 30.0トン**

○事業者寄付 45回 29トン

ツケイからイベント中止によるハイチュー1万個0.7トン、神奈川県市町村振興会から防災備蓄品約1トン、日本食研から鍋つゆ6,720個約5トン、コカ・コーラから紅茶花伝等多種の飲料7.5トン、鎌倉紅谷からお菓子類7.8トンなど多くの寄贈をうけた。米のニーズが増大する中、ユーコープ、ミツハシの定期寄贈のほかに、生活クラブ連合会から米1.4トン(計4.2トン分納)があった。新型コロナ禍での食品ロス削減を目的とする農水省調整は徐々に減ってきている。

○フードドライブ(市民寄付) 43回 1トン

個人寄付25回、横浜市内の岸谷・二ツ橋・港北・高田の各小学校、金沢区役所(常設)、ユーコープ(常設)、パルシステム神奈川ゆめコーポ(配達便)、JAよこはま、川崎労福協、横須賀市などから寄贈があった。6月1日からパルシステム配達便でのフードドライブが始まっている。20年度から常温可能な野菜の取り扱いを検討しているが、早速セレサ川崎よりジャガイモ100kgの寄贈があった。

**【提供食品】29.7トン(以下特徴的活動紹介)**

○学生支援実施

相模原市子ども・若者支援課4.2トン  
横須賀市(170名に支援)456kg

金沢区社協(100名支援)1.4トン

○地域のフードバンク

毎週実施のお福分けの会1.8トン

報徳食支援センター1.3トン

フードバンクかわさき1.2トン

フードコムニティ812kg

○寿町のカナンキリスト教会780kg

○自治体社協への提供量増加。

二宮町社協 4月218kg⇒5月490kg

⇒6月1.9トン(19年平均107kg)

藤沢市社協 4月62kg⇒5月306kg⇒6月221kg(19年平均107kg)

綾瀬市社協 4月286kg(学童保育食事提供⇒5月55kg⇒6月68kg)

並木ケアプラザ24世帯62名支援252kg、保土ヶ谷区社協105kg(19年平均32kg)、小田原市35kg(19年平均20kg) 神奈川区社協48kg



### こども医療センターにクリミッズ

「支えられる人にも支える人にも」

認定NPO法人スマイルオブキッズ 理事長 松尾 忠雄

寄稿

神奈川県立こども医療センター近くで患者・家族滞在施設「リラのいえ」を運営しています。難病治療のため、自宅を離れて入院する子どもと家族のための宿泊施設です。看病にあたる親御さんは買い物もままなりません。治療費等で経済的にもご負担が大きく、フードバンクかながわさんからの食材提供はとても助かります。ボランティアの松本さんがご寄付品を受け取り

に伺っています。先日は、鎌倉紅谷様から医療従事者の皆様への感謝を込めた贈り物を、医療センターに配達させていただきました。ご担当者様から「最高です! 高級なお菓子をいただき、職員一同とても楽しみにしています。本当にありがとうございました。」と、笑顔のメッセージをお預かりしました。



### 合意書締結団体

寄贈締結団体 101団体

提供締結団体 173団体

行政・社協 45団体

市民団体 128団体

(子ども食堂・居場所・

施設・福祉関係含む)

### 賛助会員寄付状況

設立以来の累計

団体会員 122団体

494口 494万円

個人会員 220人

874口 874千円

寄付金累計11,975,043円

### 今月のメッセージ

理事 山口 友範さん

(生活協同組合ユーコープ執行役員・かながわ県本部長)

新型コロナウイルス感染症は全世界に拡大し、広範かつ深刻な影響が進行しています。社会的距離を取りながらも様々な方法で人々がつながり、助け合うことが求められています。

生活協同組合ユーコープは、公益社団法人かながわ生き活き市民基金「新型コロナ対応緊急応援助成」プログラムの活動に賛同し、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、深刻化・長期化が懸念される生活困窮者を支援するための

「新型コロナウイルス緊急支援募金」に取り組んでいます。募金を通じて神奈川県内の活動団体を支援し、必要な方に届いてほしいと思います。

また、7月1日から2か月間、神奈川県内のユーコープ79店舗で、フードドライブ活動を実施します。今年度はJAさまがみ様と一緒にこのフードドライブ活動の広報をすすめる準備をしています。フードバンクかながわを通じて、様々な団体と連携し、地域の暮らしを支える活動を進めていきたいと思います。



### (公財)かながわ生き活き市民基金 【新型コロナ対応緊急助成結果】



50団体(第1次第2次計)6,086,986円  
50団体のうち、フードバンクかながわ関連の団体は28団体。

弁当提供 6団体 食堂 3団体

パントリー(食品提供) 12団体

テイクアウト 2団体 配食 1団体

学習支援おやつ提供 2団体 ほか

こども食堂から食品提供に転じた活動、支援の急増する地域のフードバンク、新フードバンク立ち上げ支援など緊急的な助成で応援。



助成

### (公財)かながわ生き活き市民基金 【新型コロナ対応緊急応援基金】

4月23日~8月31日  
6月30日現在 3,000,084円

× 新たなコラボ

寄付



### 生活協同組合ユーコープ

#### 【新型コロナウイルス緊急支援募金】

6月8日~6月28日で実施、約900万円の募金があり(公財)かながわ生き活き市民基金へ寄付しコロナ禍の困難を支援する市民活動への助成に活用される。



### ありがたいお金のご支援

フードバンクの活動がメディアで紹介され、食品寄付だけではなく、お金のご支援(寄付)も増えました。「3.11後のふくしまでの日々」冊子化活動の決算金を寄付していただきました。4月以降寄付総額619,600円。

「3.11後のふくしまでの日々」の皆さん  
から藤田事務局長へ

